

試験施工を開始

CO₂ 固定化再生路盤材

前田道路は、同社保有の検証用合材プラントから出る排気ガス中のCO₂を固定化した再生路盤材を製造し、茨城県土浦市の市道で試験施工した。施工に使ったCO₂固定



鉱物固定化した再生路盤材の製造状況

化路盤材では、1ト当たり最大10^キ程度のCO₂を固定化できたことを確認した。路盤材CO₂固定化技術の高効率化やプラントのスケールアップ、CO₂固定化量の測定・算出方法の高精度化、CO₂固定化路盤材の耐久性の評価を進め、2025年の実用化を目指す。

試験施工では、下層路盤と上層路盤をCO₂固定化路盤材で築造し、表・基層となるアスファルト混合物を舗設することで、舗装全体を低炭素化した。低炭素アスファルト混合物でのCO₂排出削減も含めた合計削減量は、施工面積90平方メートルで通常の舗装に比

べて約300^キのCO₂量を削減。「低炭素工区」は、通常の材料を使った「比較工区」に比べて約8%のCO₂排出量を低減した。CO₂固定化路盤材50^トで250^キ、表・基層に使った低炭素合材22^トで59^キのCO₂を削減している。

今後、同社全体のCO₂排出量削減を目指し、水素やアンモニアなどが手に入りやすく合材工場の燃料切り替えが困難な地域を中心に、プラントの標準装備としたい考えだ。

